

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日（土）～14日（日）

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JR ホテルクレメント高松

ワークショップ 10	
企画名	妊娠・授乳中の処方と考え方
日時	2017年5月13日（土） 15:00～16:30
会場	第3会場（サンポートホール高松 ホール棟 5F 54会議室）
企画責任者	水谷 佳敬（さんむ医療センター・亀田ファミリークリニック館山）
定員	36名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】 妊娠中・授乳中の患者を対象に、処方に関する適切な意志共有決定を行い、処方の是非・選択ができるようになる。</p> <p>【概要】 妊婦が受診した際に、投薬についてはどのように対応されますか？ また、授乳婦が来院した場合に、投薬や授乳継続の是非についてどのように指導をしますか？ 総合診療専門医のコンピテンシーには、妊産婦への対応が挙げられています。しかし、日常診療の中では妊娠や授乳中を理由に投薬や診療そのものを拒まれるケースがみられるのが現状です。 授乳中の場合、内服中の断乳を指示されるケースもみられますが、世界保健機構（WHO）は生後6か月までの完全母乳育児と、その後の母乳継続による母児双方のメリットについて提唱しています。母児の利益を最大にするにはどのような診療がベストなのでしょうか？ このWSでは講義（事前資料による予習を含む）およびグループワークを通じて、妊婦や授乳婦の特徴をおさえつつ、投薬の必要性の判断と、安全性が高い薬剤を選択できるようになることを目的としています。</p> <p>*当日はワークの一環としてスマートフォンやW i f i などインターネットが利用可能な機器を使用しますので、なるべくご持参ください。</p> <p>【後援】 日本プライマリ・ケア連合学会 女性医療・保健委員会（PCOG）</p>	